

令和元年度地方創生ストリートミーティング【とっとり創生若者会議編】
意見と回答・対応方針

No.	ご意見・ご要望	各課回答・対応方針	担当課
1	<p>車を持つようになって感じなくなったが、鳥取市に来たときは、交通の便が悪かった。</p>	<p>鳥取市の公共交通の主体は路線バスですが、今から40～50年前に比べ、格段に便数が減っています。高齢化が進む中で、公共交通の維持は重要な課題と捉えており、本市としても路線バス会社に支援を行っていますが、なかなか採算が取れない状況にあり、ドライバーの確保も困難と厳しい状況にあります。公共交通の維持のためには、利用していただくことがなにより必要なため、本市では通勤時の公共交通機関利用を促す「ノルデ運動」を行っています。また、路線バスのドライバー不足への対応として、事業者と連携し、自動運転バスの検討も考えています。今後とも、事業者と連携し、公共交通機関の維持に努めていきます。</p>	交通政策課
2	<p>若い世代の特性として、広報やメディアに言われても、本当に興味がないと詳しく見ない。自分が知りたいと思ったときは、ネットで調べる。広報も必要であるが、若者が調べようと思ったときに、知りたいことがちゃんと情報として載っていることが必要だと思う。</p>	<p>近年、これまでの広報媒体（テレビ、ラジオ、紙媒体等）に加え、WEB・SNS等の新たな情報コミュニケーションツールがめざましい進歩を遂げており、ライフスタイルや価値観、ニーズの変化に合わせて、市民の皆さんの情報の入手方法も多様化しています。このような状況の中で、本市でも発信者と受け手との間のギャップをいかに埋めていくかは、広報活動における大きな課題として認識しているところです。このたびご意見いただきましたネットでの情報発信については、速報性と多くの情報を詳しく掲載できるWEBの特性から、本市でもホームページを広報の基幹的なツールとして位置づけています。本市のホームページ運用ルールとして、市民の皆さんに提供すべき情報は必ず市公式ホームページ上に掲載することとしており、これからも鳥取市の魅力や行政情報が丁寧かつ効果的に伝わるよう、職員一人ひとりが市民目線に立った情報発信に努めていきます。</p>	秘書課広報室

○その他意見

- ・鳥取に来る前は「何もなかった」と周りに言われたが、住んでみると不便なく生活できるし、砂丘以外にもいろいろある。
- ・鳥取は地域づくりを本格的にやっていると思う。地域住民主体の取組みが行われていて、参考になるいい都市だと思う。
- ・県内で就職を考えたが、鳥取は総合職の募集ばかりで専門職の募集がなかった。東京などの大企業は職種によって募集が分かれており、企業側がどんな人材を採用したいかわかる。そうすると自分の希望の職種につきやすい。
- ・高校生の時に地域に関わる機会があれば、県外への学生の流出のを防げると思うし、一度鳥取を離れた人も戻ってくるのではないかな。
- ・卒業したら地元に戻るが、これからも鳥取県内の同期や先輩がやっている事業に継続的・定期的に関わるつもりでいる。